

機械アレルギー症の嘆き

一九九五年

会長 伴 利昭

九六年四月、文学部のインスティチュート制度が始まった。従来の専攻制に新たに学際的先端的な五分野が加えられたのであるが、これに際してコンピュータ端末を揃えた演習室が三室用意された。旧来の文学部授業にも使える端末八〇席の教室も整備された。新しい制度の開設がマルチメディアの流れをどっと加速したわけであるし、わが日専攻としてこの流れの外に立つことはできない。機械音痴の私など、とても理解できないことだが、渦巻きにも似た昨今の様子の一端を悲鳴を交えて紹介しておこう。

新学期最初に配られるのは講義概要だが、その原稿は手書きでもワープロでもよい。活字に組み直されて印刷されたものが配られるわけだ。ところが、殆どワープロ原稿となつた昨今は、原稿をそのまま、貼り付け

て印刷する。ワープロ活字の中に、虫食い状に手書き肉筆が点在する羽目となった。信念強く、機械を拒否する勇気がなければ、ワープロをぼつりぼつりとうめきながら打つ仕儀となる。昨年は、一年限りだが、情報機器購入に助成金が出た。買わなければあげない、まさにアメとムチ。

三年前に開設せられた政策科学部では入学時に全学生がパソコンを購入し、これに対応するカリキュラムが展開されている。図書館は毎年、図書検索を中心とするシステム(ランナーズ)の講習を学生に繰り返し行っている。書名・著者名・分類のカード類はやがて姿を消す運命にあるし、端末機をさわれない人間は本を探すことも出来ない。この四月には日文二回生に対して簡単な電子メールの講習があった。立命の全教職員・学生にはホストコンピュータのIDナンバーが設定されているから、これからは二回生は教員に対して授業の質疑や課題への応答を電子

メールで送ってくるのがでる。レポートもこれで瞬時に送れる。ただ、教員の側で読むことができなかった。この情報のやりとりはコンピュータの中で眠ったまま。しかし、メールを読めない教員に対する風当たりは強くなる。

インターネットを利用してのホームページも次々に開かれている。大学はもちろん、各学部のページもある。日本文学専攻のページも開かれた。この維持・改修も視野に入れた「情報文学研究会」という学生部会の新しい研究会もこの四月に発足した。ゼミの電子会議室も日文だけでなくに五つも開かれている。そのうちのひとつは基本文献の本文データベースとしての整備がされるようである。現在、『源氏物語』や浄瑠璃、謡曲などの作品集が収載されつつある。簡単な用例索引ならあつという間に検索してくれる。今年、二回生はこの検索の手引きを受けたことだし、年を追うことに利用する学生は増え

ていくはずだ。

理工学部・情報工学の院生と文学部・日文の院生などの協力も得て、「サーバ研究所」設立の可能性の検討も打診されている。土地も建物もないコンピュータ上に展開する研究所構想だ。バーチャルリアリティ(仮想現実)を三次元で展開し、音声も双方向通信が可能というし、外国の研究者もインターネットで参加するという。VRML、SOMA、HTMLと呼ばれる技術が用いられるそうだが、何のことがよく分からない。私の理解をはるかに超えてしまう。ああ、頭が痛くなってきた。謄写をしたり、抜き書きをしたり、我が手と足と目を用いた原始的手法が研究の土台であった時代をなつかしみながら、ワープロのキーを一本指で雨だれ式に押し、今、この近時片々を書く次第。

第三十九回大会

日時 一九九五年六月十一日(日)

午前一〇時より

場所 立命館大学 恒心館七三二教室

一 研究発表 午前一〇時〜十二時

①万葉集妻問ひ歌考 鳥谷 美輪

②阿波の素人義太夫 大久保明子

―その歴史と現状―

③谷崎潤一郎「痴人の愛」論 宮山 昌治

―一九二〇年代の史的位相をめぐって―

午後一時〜三時二十分 山口 泰子

①『保元物語』源為義一家最後譚の形成 前芝 憲一

②『噺物語』の咄 前芝 憲一

③『風に紅葉』管見 中西 健治

―解釈・本文について―

二 講演 午後三時三十分〜四時三十分 芦谷 信和

・国木田独歩の文学

三 総会

会長の挨拶の後、一九九四年度活動報告

・会計報告(別項I)及び監査報告があり、

承認された。続いて議事に移り、一九九五年度活動計画と予算案(別項II)の説明があり、原案通り承認された。役員の変更も行われた(別項III)。さらに会則第五条の変更案が提案されたが(別項IV)、この案件については継続審議事項として承認は先送りとなった。大会終了後、懇親会をおこなった。

〈別項I〉会計決算報告(一九九四年度)

収入 予算	決算
繰越金	1,726,929 1,729,929
会費	780,000 645,117
補助金	150,000 200,000
雑収入	30,000 32,654(利息他)
計	2,686,929 2,604,700
支出 予算	決算
事業費	1,000,000 895,678
通信費	150,000 157,175
事務費	10,000 18,395
雑支出	20,000 18,870(懇親会費別)
次年度繰越金	
	論究印刷費他